

みんなの広場

羽ばたけ! 若人 ④



かずのり
菅原和紀さん
(飯野川高等学校3年)

7月28日(土)から約1カ月間の日程で佐賀県を会場に行われていた、平成19年度全国高等学校総合体育大会(佐賀インターハイ)の陸上競技砲丸投げで、念願の全国制覇を成し遂げた菅原和紀さんを紹介します。

菅原さんが出場した砲丸投げの種目は、8月2日(木)・3日(金)にそれぞれ予選・決勝が行われました。台風の影響により決勝の日程が1日ずれ込んだため、誕生日(8月2日)とのW(ダブル)でのお祝いはずいぶんでしたが、それでも並み居る強豪を退け大会



記録(16kg94g)での優勝となり、昨年のリベンジを見事に果たしました。

菅原さんが本格的に砲丸投げを始めたのは高校入学後で、中学時代はバレーボール部に所属していました。菅原さん本人は、バレーボールよりそれまでやってきた野球を続けたいと思っていたそうです。砲丸投げとの縁はこの中学時代からで、当時の中総体桃生郡大会にバレーボールをやる傍ら砲丸投げにも出場し優勝したのを機に、教頭先生から「高校進学後は本格的に砲丸投げに転向してはどうか」との助言を受け、決意しました。

毎日約2時間の練習により鍛えられた、身長181cmの恵まれた体格を武器に放たれる重さ6kgの砲丸が描く放物線は、秘めた才能が解き放たれるように日に日に弧を大きくしています。

当面の目標は、9月29日(土)から秋田県を会場に行われる「秋田わか杉国体」で優勝し2冠を獲得することで、高校卒業後は、大学へ進学し競技を続けたいと思っています。

まだ開花したばかりの才能が満開になる日には、世界の大舞台で活躍する姿も楽しみです。

にぎやか家族 ②

北上町十三浜



(写真左から)

洗太くん(13歳)
まこちゃん(9歳)
廉くん(11歳)

《将来の夢》

消防士
保育士
消防士

両親から

いつまでもきょうだい仲良く、元気に育ってくれることが一番の願いです。

今月の表紙から

今月は、雄勝地区桑浜のホヤです。ホヤは、「海のパイナップル」ともいわれ、3月から9月までが旬で、平成8年度に選定された「みやぎの浜の幸12選」のひとつです。この時期は冬のホヤに比べ、シリコゲン含有量が約8倍になり、甘みと旨味が増すそうです。そのうえ吸収の速い動物性炭水化物グリコゲン、タウリン、亜鉛など、とても栄養豊富です。

天然ものもありますが、ほとんどは養殖もので市内でも雄勝地区・牡鹿地区で盛んに養殖されています。

この日は、永沼信良さんに養殖棚まで連れて行ってもらいました。引き上げると、ロープにホヤが団子状にびっしりと付いていました。1本のロープに200kgほどのホヤが付いているそうです。



永沼 信良さん

香りが強く、好き嫌いのはっきり分かれるホヤですが、東北の太平洋沿岸では昔から盛んに食へられています。現在では首都圏でも普通に見かける食材になったそうです。

食へ方はいまさらいつまでもありませんが、コンフタと共に塩辛にしたものを莫久来(はくらい)といい、海鮮高級珍味として、最近ではインターネットの通信販売などでも売られています。

サークル間 仲なかま

23

広がるリズムで

笑顔と健康

かほく銭太鼓パールズ

今月は、かほく銭太鼓パールズの皆さんを紹介
します。

“ハイ・ハイ・ハイ・ハイ”と、リズムミカルに体を動かしながら、色鮮やかな銭太鼓を手に笑顔で踊るのは、かほく銭太鼓パールズの皆さんです。(銭太鼓とは、筒の中に硬貨みたいなものを入れ、踊り手が振りながら使う楽器のことです)

平成6年の発足当時は、河北地区二俣婦人会だけの活動でしたが、現在は河北地区全域に広がり、会員は65人となりました。

“皆が親しみやすく、健康に役立つもの



▲河北銭太鼓パールズの皆さん

を”と銭太鼓を選び、地域の方々とのおふれあいをおこなうのが、活動の中心です。パートリーダーは6曲で、曲に合わせて3種類の衣装を

着ています。

“真実一路のマーチ・一円玉の旅がらす”など、なじみの曲に、誰でも簡単に参加できる手軽さをモットーに、会長の武山ちよ子さんが振り付けを考えます。

かほく銭太鼓パールズの名前は、『パールズ』を『輝く人々』という意味にとり、年をとっても輝いていようということからつけられました。

老人介護施設やお祭りなどで活動し、地域の皆さんに笑顔と活力を振りまいています。

今年で13年目を迎えますが、今後さまざまなイベントに参加し、チームの輪を広げながら、楽しく踊っていきたく話す、元気いっぱいの方々が活躍しています。



▲銭太鼓

長寿のひけつ

20

自然と共に生活して健康に

雄勝地区立浜 阿部ふじ江さん 86歳

今回は畑仕事大好きな阿部ふじ江さんを紹介しします。



“釣りに出かけてません。孫たちが来ると大変なんだーおさんどん(台所仕事)がー”と、話す笑顔が

うれしそう、それがとても印象的でした。

私が阿部さんの家を訪ねたとき、庭先に白い粉が干してありました。それは阿部さんが育てたじゃがいもから作った片栗粉でした。魚をから揚げにするのに使うそうです。片栗粉が自家製だなんてすごい!! “昔人だから”と何回も口にしている阿部さんでしたが、昔ながらの知恵や工夫をいっぱい知っていて、私もこんな風に年をとりたい!とちょっと憧れてしまいました。

阿部さん、まだまだ元気で長生きしてくださいね!

阿部さんの長寿のひけつは“体を動かすことと早寝早起き、3度の食事”です。毎朝4時に起きて、畑仕事や家事をこなし、夜は7時に布団に入る、毎日規則正しい生活をしています。また、3食きちり食事し、出来合いの食品は嫌いでほとんど自分で作った料理しか食べません。お菓子もやわらかいものが嫌いでいつもせんべいのような硬いものを好んで食べているそうです。病気ひとつせず、いまだに自分の歯が20本あるというのも納得できる気がします!

畑では、今はじゃがいも、きゅうりなど夏野菜を収穫しています。一年を通して季節の野菜を収穫している阿部さんは、育てた野菜や海から採ってきた魚をすぐ食べられるようにさばいて、月に1度は必ず東京や北海道などにいる子どもたちに送っています。そのお陰で孫たちも風邪をひかずに元気に暮らしているそうです。

普段は一人で生活をしている阿部さんですが、孫が8人います。お盆になると孫たちが遊びに来て一緒に大好きな釣りに出かけます。いつもは、時間ももった